

国際人文学部 国際文化学科

履修の手引と手続き

<小 目>

I	カリキュラム・ポリシー	148
II	ディプロマ・ポリシー	148
III	授業科目について	149
IV	授業科目の単位と認定	149
V	卒業に必要な単位について	150
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	150
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	152
	1. 学科共通科目群	152
	2. 学部コア科目群	155
	3. 専門基礎科目群	156
	4. 専門科目群	157
	5. 専門関連科目群	161
	6. Global College 科目群	163
	7. 特設科目群	165
	8. 自由科目群	166
VIII	リベラルアーツ&サイエンス科目群	167
IX	履修申請について	170
X	正規の履修からはずれる場合	170
XI	試験について	171
XII	授業科目の単位認定と進級および留年	172
XIII	成績発表	170

履修の手引きと手続き

I カリキュラム・ポリシー

国際人文学部国際文化学科では、教育研究上の目的及び学部学科の人材育成の目標に基づき、グローバル人材を養成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- 言語、文学、美術、歴史、社会、ジェンター、比較文化など、専門分野について学ぶための基礎を身につけられるよう、専門基礎科目群をおく。
- 日本文化、世界の文化に係る専門知識を獲得し、研修等を通じて体験的に学び、それらの集大成をはかることができるよう、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをおく。
- 比較の観点や学際的な視点を養い、文化をより深く理解できるよう、専門分野以外の科目を履修することを奨励する。
- 論理的思考力、批評的思考力、課題設定力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、社会生活において必須となる汎用的な能力を育成するために、1・2年次に基礎演習を、3・4年次に国際文化演習をおく。
- 外国語を使いながら学び、能力を高めさせるために、英語で国際教養を学ぶGlobal College科目群をおく。
- 専門の学びと卒業後の活動や仕事を結びつけてキャリア形成ができるよう、専門関連科目群をおく。

II ディプロマ・ポリシー

国際人文学部国際文化学科は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（国際文化）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- ・文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解している。
- ・「世界の中の日本」の姿を認識し、理解している。
- ・自身が専門とする各国や各地域の言語と文化について専門的な知識を有し、適切に理解している。

2. 汎用的技能

- ・一つ以上の外国語について、日常生活に必要な程度の運用能力を持っている。
- ・日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達するための方法を知り、実践できる。
- ・必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。

3. 態度・志向性

- ・異文化社会に属する人々とコミュニケーションをはかり、相互理解に努めようとしている。
- ・柔軟な思考力と判断力を持って、多様な価値観や思考様式を持つ人々と協調・協働して行動しようとしている。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・グローバル社会を多面的に捉え、そこから自らの見解を形成することができる。
- ・習得した教養や技能を生かして、グローバル社会における課題を発見し、解決に努めようとしている。

Ⅲ 授業科目について

国際人文学部国際文化学科における授業科目は、学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ、学部コア科目群、専門基礎科目群、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門関連科目群、Global College 科目群、特設科目群、自由科目群から構成されている。

なお、教職に関する科目および学芸員資格取得に関する科目の一部は、自由科目群に配置されている。

Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行う。D・E・F・T・Zの評価については、単位を認定しないものとする。なお、N・Hは、単位振替により単位を認定したことを示す。

V 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

ただし、自由科目群の科目は卒業に必要な単位には含まれないので、注意すること。

系 列	学部・学科	国際人文学部 国際文化学科	
		単 位 数	
		※ I	※ ※ II
学科共通科目群 I (言語)		16	12
学科共通科目群 II (情報科学)		4	4
学部コア科目群		8	4
専門基礎科目群		10	4
専門科目群 I (国際日本)		16	10
専門科目群 II (世界の文化・文化比較)		16	
専門科目群 III (演習・研修)		14	14
専門関連科目群		10	6
Global College 科目群			40
各科目群に指定された最低修得単位のほかに、国際文化学科の全ての科目群もしくは国際人文学部国際交流学科、経営情報学部、福祉総合学部、メディア学部、環境社会学部、観光学部の科目より32単位以上修得しなければならない		32	32
計		126	126

※ I は、日本で12年間の学校教育を受けた学生または同等の能力を有している学生、ならびにN2相当以上の日本語能力を有する学生。

※ ※ II は、原則として非漢字圏において学校教育を受けた学生。

VI 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するには原則として「基礎演習 I・II」及び1年次の必修科目を含め36単位以上を修得していなければならない。

各学年に履修する科目群および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。選択するコースによって卒業要件が異なるため、1年次から学習計画を立てる必要がある。

また、年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

※前ページ表のⅠに該当する学生の各年次における標準的な修得単位は次のとおりとする。

科目群	必修/選択	1年次	2年次	3年次	4年次	科目群合計	必修科目
学科共通科目群Ⅰ (言語)	必修	4	4			8	Fundamentals of English I・II Oral Fluency I・II 第二外国語ⅠA・ⅠB
	選択必修	4				4	
	選択		2	2		4	
学科共通科目群Ⅱ (情報科学)	必修	4				4	情報メディア論 コンピュータ技能Ⅰ
学部コア科目群	選択	4	4			8	8
専門基礎科目群	選択	6	4			10	10
専門科目群Ⅰ (国際日本)	必修	4				4	日本の社会と文化a (伝統文化) 日本の社会と文化b (現代文化)
	選択	4	6	2		12	
専門科目群Ⅱ (世界の文化・文化比較)	必修					0	16
	選択	4	6	6		16	
専門科目群Ⅲ (演習・研修)	必修	2	2	2	6	12	基礎演習Ⅰ・Ⅱ 国際文化演習Ⅰ・Ⅱ
	選択		2			2	
専門関連科目群	選択		4	6		10	10
その他		4	6	20	2	30	32
学年別修得単位数 計		40	41	39	8	126	126

※※前ページ表のⅡに該当する各年次における標準的な修得単位は次のとおりとする。

科目群	必修/選択	1年次	2年次	3年次	4年次	科目群合計	必修科目
学科共通科目群Ⅰ (言語)	必修	4	4			8	Fundamentals of English I・II Oral Fluency I・II 第二外国語ⅠA・ⅠB
	選択必修	4				4	
	選択					0	
学科共通科目群Ⅱ (情報科学)	必修	4				4	情報メディア論 コンピュータ技能Ⅰ
学部コア科目群	選択	2	2			4	4
専門基礎科目群	選択	2	2			4	4
専門科目群Ⅰ (国際日本)	必修	4				4	日本の社会と文化a (伝統文化) 日本の社会と文化b (現代文化)
専門科目群Ⅱ (世界の文化・文化比較)	選択		6			6	
専門科目群Ⅲ (演習・研修)	必修	2	2	2	6	12	基礎演習Ⅰ・Ⅱ 国際文化演習Ⅰ・Ⅱ
	選択		2			2	
専門関連科目群	選択		2	4		6	6
Global College 科目群 特設科目群	選択	14	14	12		40	40
その他		4	6	20	2	30	32
学年別修得単位数 計		40	41	39	8	126	126

Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

- (1) 「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は、数字の順序に従って履修するものとする。「Ⅰ A・Ⅰ B」は原則としてⅠ Aを先に履修すること。
- (2) 「a・b」はどちらを先に履修してもよい。また、どちらか一方のみの履修も可とする。
- (3) ただし、実際の履修についてはシラバスに記された各科目の履修要件をよく読むこと。
- (4) 単位数を○で囲んだ科目は必修を示す。
- (5) 本学は春学期・秋学期の二学期制をとっている。基本的に大多数の科目は学期ごとに履修することになる。ただし、一部に一年間（春学期・秋学期）を通して履修する通年科目がある。また、夏期と冬期には集中講義期間があり、集中講義期間には数日間同じ科目の授業が実施される。さらに、研修・インターンシップ等は、学期の枠と関係なく実施される場合もある。
- (6) 原則として上位学年の者は、下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば1年次の枠のみに指定されている科目でも、2年次以上になってから履修できる。但し、授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので、それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。

1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、同Ⅰ（言語）、同Ⅱ（情報科学）の2系列に分かれている。それらの各科目群の中から「Ⅲ 卒業に必要な単位について」で示された所定の単位以上を修得しなければならない。

(1) 学科共通科目群Ⅰ（言語）

国際人文学部国際文化学科の基本をなす科目であり、国際化社会に生きるための教養としての言語、さらに専門分野の学修に必要な言語を学ぶための科目を配置している。コースによって卒業要件が異なるため、備考欄をよく参照すること。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科 共通 科目 群 Ⅰ (言語)	Fundamentals of English I	②				16単位	(1)必修の英語4科目 8単位を含め、16単位 を修得すること。 (2)英語以外の言語から 一言語を選択し、 2科目4単位を選択 必修。
	Oral Fluency I	②					
	Fundamentals of English II		②				
	Oral Fluency II		②				
	TOEIC: Vocabulary I		2				
	TOEIC: Grammar & Listening I		2				
	TOEIC: Vocabulary II		2				
	TOEIC: Grammar & Listening II		2				
	Basic Writing Skills		2				
	Intermediate Grammar		2				

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学 科 共 通 科 目 群 I (言語)	Intermediate Practical Discussion Skills	2					
	Intermediate Reading Skills		2				
	Business English Writing			2			
	Spoken Business English			2			
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語 II	2					
	ドイツ語 III		2				
	ドイツ語 IV			2			
	フランス語 I A	2					
	フランス語 I B	2					
	フランス語 II	2					
	フランス語 III		2				
	フランス語 IV			2			
	スペイン語 I A	2					
	スペイン語 I B	2					
	スペイン語 II	2					
	スペイン語 III		2				
	ポルトガル語 I A	2					
	ポルトガル語 I B	2					
	ポルトガル語 II	2					
	ポルトガル語 III		2				
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
	中国語 II	2					
	中国語 III		2				
	中国語 IV			2			
	中国語読解演習			2			
	中国語検定演習 a	2					
	中国語検定演習 b		2				
	韓国語 I A	2					
	韓国語 I B	2					
韓国語 II	2						
韓国語 III		2					
韓国語 IV			2				
韓国語読解演習			2				
韓国語検定演習 a	2						
韓国語検定演習 b		2					

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学 科 共 通 科 目 群 I (言語)	ハンガリー語ⅠA	2				留学生・指定された 帰国生徒等対象 必修の日本語8単位 を含み16単位を選択 必修 選択の8単位分は、 日本語以外の科目で 修得することができる (ただし、母語を除く)。 非漢字圏からの留学生 は 必修の日本語8 単位を含み12単位を 選択必修 選択の4単位分は、 「学科共通科目群Ⅰ」 日本語以外の科目で 修得することができる (ただし、母語を除く)。	
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語Ⅱ	2					
	ハンガリー語Ⅲ		2				
	ハンガリー語Ⅳ			2			
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語Ⅱ	2					
	ポーランド語Ⅲ		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語Ⅱ	2					
	チェコ語Ⅲ		2				
	スウェーデン語ⅠA	2					
	スウェーデン語ⅠB	2					
	日本語ⅠA	②					
	日本語ⅠB	②					
	日本語ⅡA		②				
	日本語ⅡB		②				
	日本語Ⅲ			2			
日本語Ⅳ			2				
ビジネス日本語Ⅰ			2				
ビジネス日本語Ⅱ			2				

〔備考〕

- (1) 学科共通科目群Ⅰでは、第一外国語として英語を学ぶ。うち、Fundamentals of EnglishⅠ・Ⅱ、Oral FluencyⅠ・Ⅱは必修科目である。
- (2) Fundamentals of EnglishⅡ、Oral FluencyⅡを履修するためには、履修前提条件として、それぞれのⅠを修得していなければならない。
- (3) 英語科目、日本語科目を履修する場合は、プレメントテストを受験すること。

(2) 学科共通科目群Ⅱ (情報科学)

情報化社会に必要な、パソコンやインターネットなどに関する知識とスキルを習得する科目を配置している。1年次にはこれらの科目を必修として学ぶ。これと合わせてマイクロソフトの技能資格を取得することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅱ (情報科学)	情報メディア論	②				4単位	
	コンピュータ技能Ⅰ	②					
	コンピュータ技能Ⅱ		2				

2. 学部コア科目群

この科目群は、グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのありかたを多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にすることが目的である。

なお、留学を予定する者は「留学プランニング」を履修すること。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学部 コア 科目 群	歴史・文化の視点	2				8単位	4科目8単位を選択必修とする。(非漢字圏学生は4単位)
	異文化理解	2					
	世界の中の日本	2					
	地域と大学	2					
	自校史研究(建学の精神と大学の理念)	2					
	コミュニケーションの基礎	2					
	ビジネス入門	2					
	留学プランニング	2					
ジェンダー論	2						

3. 専門基礎科目群

人文科学，社会科学の一般教養および専門基礎教養を身につけるための科目群である。併せて，実技のスポーツ科学を設置する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群	比較文化概論	2				10単位	5科目10単位を選択必とする。(非漢字圏学生は4単位修得すること。)
	文化人類学	2					
	日本文化論	2					
	言語学概論	2					
	比較文学論	2					
	美術史	2					
	視覚文化論	2					
	政治学入門	2					
	社会学入門	2					
	法学概論	2					
	日本国憲法	2					
	日本の歴史 a	2					
	日本の歴史 b	2					
	外国史概説	2					
	アメリカ文化概論	2					
	アメリカの歴史	2					
	韓国学概論	2					
	韓国の歴史	2					
	中国の歴史	2					
	中国概論	2					
スポーツ科学 I a	1						
スポーツ科学 I b	1						

4. 専門科目群

専門科目群は、「国際日本」「世界の文化・比較文化」の2系列に分かれている。この2系列から各自の目標に沿って学習する科目を選択し、4年次には各自の研究内容から活動内容を文章や作品の形で集大成する。したがって、1年次から「学科共通科目群Ⅰ（言語）」「専門基礎科目群」を計画的に履修し、系統立てて学習する必要がある。

(1) 専門科目群Ⅰ（国際日本）

「世界から見た日本，日本から見た世界」を基本理念に，日本の社会と文化について基礎から専門へと学びを深め，同時に，それらを国際的視野で見直し，世界に発信しうる力を養う。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (国際日本)	日本の社会と文化 a (伝統文化)	②				16単位	8科目16単位を選択必修とする。(非漢字圏学生は専門科目群Ⅱとあわせて10単位修得すること。)
	日本の社会と文化 b (現代文化)	②					
	日本民俗学		2				
	日本地理		2				
	日本語学概論 a		2				
	日本語学概論 b		2				
	日本語の文法 a		2				
	日本語の文法 b		2				
	日本語の語彙・意味		2				
	日本語の音声			2			
	日本文学概論		2				
	日本文学史			2			
	日本の文学 a (古典)			2			
	日本の文学 b (近・現代)			2			
	現代女性文学				2		
	漢文講読 a (韻文)			2			
	漢文講読 b (散文)			2			
	書道 a (書写中心)			2			
	書道 b (書写中心)			2			
	日本美術		2				
	表象文化論			2			
	古典芸能と現代			2			
	仏教文化			2			
家族論		2					
日本の食文化			2				
ファッションと文化			2				
沖縄文化交流史			2				

(2) 専門科目群Ⅱ（世界の文化・比較文化）

日本が過去および現在にわたって密接な関係をもち、今後も関係の発展が求められる国や地域を中心に、世界の文化を総合的に学ぶ。また、日本との比較の視点を組み込みながら深く追究する。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 Ⅱ （ 世 界 の 文 化 ・ 文 化 比 較 ）	英語学概論 a	2				16単位を選択必修とする。(非漢字圏学生は、 専門科目群Ⅰとあわせて10単位修得すること。)	
	英語学概論 b	2					
	アメリカ文学概論	2					
	ラテンアメリカの歴史		2				
	近代イギリス文学		2				
	世界の児童文学	2					
	フランスの社会と文化	2					
	ドイツの社会と文化	2					
	中欧の社会と文化	2					
	中欧地域文化研究			4			
	西洋美術	2					
	中国文学の世界		2				
	中国経済入門		2				
	日中ビジネス事情			2			
	韓国文学の世界		2				
	韓国民俗論		2				
	アジア経済	2					
	アジア国際関係論		4				
	アジアの女性論	2					
	東南アジアの社会と文化	2					
	中国語コミュニケーションⅠ	2					
	中国語コミュニケーションⅡ	2					
	韓国語コミュニケーションⅠ	2					
韓国語コミュニケーションⅡ	2						
日本とアジア		2					
日本と北米		2					
日本と中南米		2					

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年		
専 門 科 目 群 Ⅱ (<u>世界の文化・文化比較</u>)	日本とヨーロッパ		2				
	ヨーロッパ世界とアメリカ		2				
	文化交流史 a (日本:アジア)		2				
	文化交流史 b (日本:欧米)		2				
	日中比較文化			2			
	日韓比較文化			2			
	多文化社会論			2			
	ジェンダーと表現			2			

(3) 専門科目群Ⅲ (演習・研修)

演習，研修の2系列を含む。

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ1年次，2年次の必修である。大学で学ぶための基礎的な学力を身につけることや専門分野への導入を目的としている。

「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ3年次，4年次の必修である。「Ⅰ」では研究法や論文作成法，口頭発表法を実践的に学び，「Ⅱ」では4年間の学びや活動の集大成として作品を制作したり，報告書や卒業論文をまとめたりする。

「キャリア形成演習Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ2年次，3年次の選択科目であるが，「Ⅰ」はキャリア形成への意識開発と目標設定，「Ⅱ」は就職活動への準備を行うことを目的としているので，各自のキャリア目標に即して履修することが望ましい。

研修の内容は，「インターンシップ」「コミュニケーションインターンシップ」「国際文化研修 a (海外)・b (国内)」であり，いずれも選択科目である。「インターンシップ」では，企業や各種団体において所定の期間，就業体験をする。「コミュニケーションインターンシップ」は，海外において日本語教授の実習を行うもので，日本語教員養成課程 (副専攻) の一環でもある。「国際文化研修 a・b」は，海外あるいは国内に設定されたコースで研修を行う。当該地域の文化を現地において体験し，新たな知識と視野を獲得することを目的としている。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ (演習・研修)	基礎演習Ⅰ	②				14単位	必修科目「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」および「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ」12単位を含み14単位を修得すること。
	基礎演習Ⅱ		②				
	国際文化演習Ⅰ			②			
	国際文化演習Ⅱ (卒業論文および制作を含む)				⑥		
	キャリア形成演習Ⅰ		1				
	キャリア形成演習Ⅱ			1			
	インターンシップ			3			
	コミュニケーション インターンシップ		3				
	国際文化研修 a (海外)		2				
	国際文化研修 b (国内)		2				
	地域プロジェクト		2				

〔備考〕

- (1) 原則として，「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は指定されたクラス，「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ」は同じ領域の演習を2年続けて履修すること。
- (2) 「国際文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修するには，「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない。

5. 専門関連科目群

大学における学びと卒業後の活動や仕事とを結びつける科目が配置されており、将来の進路目標にむかって、学業と並行してキャリア形成を行う。国際的な場で仕事をするための知識や視点を修得する科目、専門職に必要な知識や技能を修得する科目、資格取得や検定試験合格を目指す科目が設置されているので、個々の目標を立てて履修していくことが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門関連科目	グローバル社会と女性	2				10単位	10単位を選択必修とする。(非漢字圏学生は、6単位修得すること。)
	女性とキャリアデザイン		2				
	国際法			4			
	国際経済学			2			
	国際関係論			4			
	翻訳の基礎(英日)			2			
	翻訳の技法(英日・実務翻訳)			2			
	通訳の基礎(英日)			2			
	通訳の技法(英日・実務通訳)			2			
	日中翻訳技法Ⅰ		2				
	日中翻訳技法Ⅱ			2			
	日中通訳技法Ⅰ		2				
	日中通訳技法Ⅱ			2			
	日韓翻訳技法Ⅰ		2				
	日韓翻訳技法Ⅱ			2			
	日韓通訳技法Ⅰ		2				
	日韓通訳技法Ⅱ			2			
	日本語教授法a(教授法)		2				
	日本語教授法b (コースデザイン・評価)		2				
	日本語教授法c (教材・教具)		2				
	日本語教育事情			2			
	日本語教育実習			4			
プロジェクト教育		2					
生涯スポーツ概論	2						
生涯学習論	2						
異文化間コミュニケーション論		2					
第二言語習得論		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 関 連 科 目	言語学			2			
	経済原論 a		2				
	経済原論 b		2				
	地理学 a		2				
	地理学 b		2				
	地誌		2				
	倫理学概論		2				
	宗教学概論		2				
	文化遺産		2				
	国際文化政策			2			
	ミュゼオロジー入門	2					
	ミュージアムと展示	2					
	ミュージアムと情報・メディア	2					
	ミュージアムと教育	2					
	ミュージアム・マネジメント		2				
	ミュージアムの資料		2				
	ミュージアムと資料保存		2				
	国際文化特別講義 I			2			
国際文化特別講義 II			2				

〔備考〕

- (1) 「翻訳の技法（英日・実務翻訳）」 「通訳の技法（英日・実務通訳）」 を履修するには、原則として「翻訳の基礎」「通訳の基礎」をそれぞれ履修していなければならない。
- (2) 「プロジェクト教育」は、所定のプロジェクトに参加し成果を修めた場合、単位が認定される科目である。
- (3) 「国際文化特別講義 I・II」を履修する場合は、履修条件を確認すること。

6. Global College 科目群

Global College 科目群には、世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことが出来る科目を配置している。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科 目 群	Introduction to Japanese Literature	2				「Global College 科目群」において修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を限度として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。(非漢字圏学生は、特設科目群とあわせて40単位修得すること。)
	Japanese Literature in Translation a	2				
	Japanese Literature in Translation b	2				
	Modern American Literature	2				
	Modern Women's Literature	2				
	Modern Poetry	2				
	Japanese Art and Literature	2				
	Samurai Tradition in Edo Culture	2				
	Japanese Art & Museum Management		2			
	Tradition in Contemporary Japan	2				
	Theory of Acculturation: Minorities in Japan		2			
	Europe and Japan a	2				
	Europe and Japan b	2				
	Cinema Studies	2				
	The Great Directors in the World I	2				
	The Great Directors in the World II	2				
	Japanese Film and Visual Art	2				
	Japan-U.S. Film Comparative Research		2			
	Introduction to French Cinema I	2				
	Introduction to French Cinema II	2				
	Film Industry in Hollywood	2				
	Reading Comics in English	2				
	Animation	2				
Sound Design		2				
Gender and Culture	2					
Modernism in Architecture	2					
The Cityscape Worldwide	2					

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
Global College 科目群	Business and Society	2				
	International Finance			2		
	International Marketing			2		
	Introduction to Database Theory			2		
	Introduction to Global Management	2				
	Strategic Management		2			
	Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue		2			
	Introduction to Social and Environmental Studies	2				
	Ecology Policy	2				
	Environmental Issues & Technology		2			
	Introduction to Health Science		2			
	Japanese to English Translation			2		

7. 特設科目群

英語を母語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とし、日本語力の向上をはかる科目群である。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
特 設 科 目 群	Basic Japanese a	4				英語を母国語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とする。修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。 「Basic Japanese a・b・c・d」「Intermediate Japanese a・b・c・d」「Advanced Japanese a・b」は、日本語プレメントテストの結果によりクラス指定を受けて履修すること。 その他の科目については、オリエンテーションを受けたうえで履修すること。
	Basic Japanese b	4				
	Basic Japanese c	4				
	Basic Japanese d	4				
	Intermediate Japanese a	4				
	Intermediate Japanese b	4				
	Intermediate Japanese c	4				
	Intermediate Japanese d	4				
	Advanced Japanese a			4		
	Advanced Japanese b			4		
	JLPT course a			4		
	JLPT course b			4		
	Japanese Project a			2		
	Japanese Project b			2		
	日本文化 a	2				
	日本文化 b	2				
日本社会 a	2					
日本社会 b	2					

8. 自由科目群

専門の内容以外に、教育職員免許状や学芸員資格などに必要な科目を配置する。本科目群の履修単位は、卒業単位に含まれない。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
自由科目群	博物館実習Ⅰ			2			
	博物館実習Ⅱ				1		
	教育原理		2				
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	青年心理学		2				
	教育制度		2				
	教育方法論		2				
	国語科教育法Ⅰ			2			
	国語科教育法Ⅱ			2			
	国語科教育法Ⅲ			2			
	国語科教育法Ⅳ				2		
	社会科教育法Ⅰ			2			
	社会科教育法Ⅱ			2			
	社会科教育法Ⅲ			2			
	社会科教育法Ⅳ				2		
	地理歴史科教育法Ⅰ			2			
	地理歴史科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅰ			2			
	英語科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅲ			2			
	英語科教育法Ⅳ				2		
道德教育の理論と方法	2						
特別活動論		2					
生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2					
教育相談（カウンセリングを含む）			2				
教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）					3		
教育実習Ⅱ					2		
教職実践演習（中・高）					2		

Ⅷ リベラルアーツ&サイエンス科目群

リベラルアーツ&サイエンス (LAS) センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げている。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部・学科ですでに開講している科目を“人格形成領域”“一般教養領域”“基礎能力領域”という3領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」として特別に提示している。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」「社会とジェンダー」
という5テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」という4テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」という4
テーマ

に分けてまとめている。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマである。

これらに加えて、LASセンターが特に力を入れたい分野・テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養Ⅰ～Ⅳ」として単位認定する。LASセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて1～4年次のいずれかで履修することができる。

「リベラルアーツ&サイエンス科目群」を履修して取得した単位は、30単位を限度として申請により、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。「リベラルアーツ&サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業にかかわる相談等は、本部棟4階にあるLASセンターにて随時受け付けている。

リベラルアーツ&サイエンス科目群

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1年	2年	3年	4年	
人 格 形 成 領 域	①地球と環境	生活と環境	2				L A S科目群から修得した単位の中から30単位を限度として、各科目群に申請により振り替えることができます 詳細については、オリエンテーション時に説明します。
	②人間と思想	現代の人間思想	2				
		現代思想	2				
	③国家と規範	日本国憲法 ※	2				
		法律学概論 ※	2				
		政治学入門 ※	2				
	④倫理と社会	倫理学概論 ※		2			
		情報社会と情報倫理	2				
	⑤社会とジェンダー	女性学入門	2				
		ジェンダー論 ※	2				
一 般 教 養 領 域	①人類のあゆみ	サルからヒトへ	2				
		日本の歴史 a ※	2				
		日本の歴史 b ※	2				
		アメリカの歴史 ※	2				
		韓国の歴史 ※	2				
		中国の歴史 ※	2				
		人類と科学技術の発達		2			
	②文化のかたち	文化人類学 ※	2				
		日本文化論 ※	2				
		アメリカ文化概論 ※	2				
		日本美術 ※	2				
		西洋美術 ※	2				
	③社会と経済	社会学入門 ※	2				
		経済事情	2				
		経済学入門		2			
		経済学の基礎	2				
		中国経済入門 ※		2			
	④健康と福祉	心と身体の科学		2			
		健康維持と生活習慣		2			
	基 礎 能 力 領 域	①非言語分野	基礎の数学	2			
線形代数学			2				
統計学の基礎知識			2				
総合基礎教養Ⅰ(非言語)			2				
総合基礎教養Ⅱ(非言語)			2				
②言語分野		日本語基礎表現法	2				
		総合基礎教養Ⅲ(言語)	2				
		総合基礎教養Ⅳ(言語)	2				
③ビジネスマナー		ビジネス入門 ※	2				
		ビジネス基礎		2			
		ビジネスマナー		2			

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	
基礎能力領域	③ ビジネスマナー	航空・空港キャリア概論 a	2				
		航空・空港キャリア概論 b	2				
	④ プレゼンテーション	プレゼンテーション I	2				
		プレゼンテーション II	2				

※ 印は国際文化学科の科目群に既存

IX 履修申請について

各年次において履修しようとする科目は、毎学期の初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画を立て単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目の変更、追加、取消しなどが無いよう、入力をする前に授業時間割表に則して再確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合期間が設けられているので、間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められない。また、修得した単位は分割することはできない。よって、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (5) Web履修登録では、授業科目を正しく入力すること。入力上の誤りがあると申請自体が無効になるので十分注意すること。また、入力の際、PCの前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるので、登録する講義や時間割の下書きを予め準備してから入力すること。なお、大学内に設置されているPCの台数は限られているので、Web履修登録のために長時間占有しないこと。
- (6) 履修の都合によりコマ・コード番号が必要となる場合がある。コマ・コード番号とは、時間割表に授業科目と共に記載されている番号で、その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は、学業の意思なしとみなされて、退学処分となるので入力期限を厳守すること。
- (8) 教職課程・副専攻・留学等、履修についての質問は、それぞれのアドバイザーもしくは、学部事務室に相談すること。

X 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

履修申請をして単位が修得できなかった授業科目については、次年度または次学期において再び履修することができる。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は、必ず学部事務室に相談すること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。

XI 試験について

1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。但し、病気または正当な理由による長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2. 追 試 験

- (1) 追試験はやむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は成績表の当該科目にTの表示がなされた場合に限って受験することができる。
なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は1科目につき200円である。

3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。但し、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目にFの表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合に限り、再試験を受験することができる。
なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料は1科目につき1,000円である。

4. 試験に関する注意

1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものはすべて監督者の指定

する場所におこななければならない。

- (3) 受験者は学生証または受験許可証を机の上の見やすい場所に提示しておこななければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室，受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお，監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は，試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料が未納の者，授業時数の1/3以上欠席した者は，試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は，診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて，遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については，学則第68条により罰せられ，更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については，教授会の審議を経て，学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや，教えること等，いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前，及び「解答おわり」の後に，試験監督の指示に従わず，解答を続けること。
- (5) その他，試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等において，剽窃行為をすること。

※ 剽窃行為…引用の形式をとらず，著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり，著作権法に違反する行為。

XII 授業科目の単位認定と進級および留年

1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は，シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし，60点以上をもって単位修得（合格）とする。
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2. 進級及び留年

- (1) 3年次への進級については、指定された進級要件を満たした場合に可能となる。
 なお、指定された進級要件を満たさない場合においても、教授会の決定により進級を認める場合がある。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

XIII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドヴァイザーまたは国際文化演習Ⅰ・Ⅱの担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。
- | （合格） | （正規試験不合格） | （追・再試験不合格） |
|-----------|-----------------|------------|
| S：100～90点 | F：59点以下（再試験受験可） | D：59点以下 |
| A：89～80点 | T：追試験受験可 | E：未受験 |
| B：79～70点 | Z：追・再試験の受験資格なし | |
| C：69～60点 | 評価不能 | |
- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。
 詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合は学生証および委任状を持参すること。

